

広島経済同友会 尾道支部

平成19年1月号

発行日 平成19年1月17日発行
発行者 広島経済同友会尾道支部
住所 広島県尾道市土堂2-10-3 商工会議所
Tel ビル
E-mail 0848-23-2222 Fax 0848-23-3333

尾道の新時代に期待

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい希望に満ちた新年をお迎えの事と謹んでお慶び申し上げます。さて、昨年を顧みますと、政治・経済・社会の大きな転機の訪れを感じた年でもありました。

政治面では、歴代3位の長期政権に及んだ小泉政権が、かねてからの宣言通り昨年9月に自ら終止符を打たれ、代わって戦後生まれで最年少の安倍総理大臣が誕生致しました。「美しい国・日本」「地方の活力なくして国の活力なし」と道州制ビジョンの策定による、地方分権の推進について所信表明をされました。

そうした中で、翌月には北朝鮮の核実験問題が勃発し国際情勢が一気に緊迫しました。また国内的には、特に教育問題、年金問題、或いは地方行政における談合など色々な事が表に出た1年ではなかったかと思えます。

経済面では、年明け早々にライブドア問題、6月には村上ファンド問題ということで証券等に対する信頼度が揺さぶられました。そして日本銀行の金融政策による3月の量的緩和、7月のゼロ金利政策解除という大きな転換がありました。これも経済が動き出した表れだと思います。

2002年2月に始まった景気拡大が昨年10月の時点で57ヶ月目となり、戦後最長であるいざなぎ景気と並びました。今も景気拡大が続いていますが、業種別、地域別に新たな格差が出ているように感じられます。

社会面では、スポーツでトリノ五輪での荒川選手の金メダル、ワールドベースボールクラシックでの奇跡的な優勝という嬉しいニュースもありました。また、秋篠宮家に親王がご誕生されました。その一方で、異常気象による豪雪や竜巻など大変荒々しい気象が続きました。また、教育現場での未履修の問題やイジメの問題、親が子どもへ対しての虐待、或いは子どもの親に対する傷害事件等 大変辛いニュースも多くあった年だった様に思います。

尾道市に於いては、『男たちの大和』映画ロケセットの公開が100万人を突破し、5月に大成功の内に幕を閉じました。2006年1月10日に因島市、瀬戸田町との合併がありました。15万3千人の市として新しい尾道市が誕生致しました。そして9月には概ね10年間を展望した尾道市総合計画基本構想（ヒューマンポート・尾道—国際芸術文化都市を目指して—）が決定し行政運営の指針として計画スタートした年でもあります。また尾道市の景観計画も決定し、今年2007年4月1日に景観法が施行される予定で進んでおります。



11月例会

日時 11月17日（金）18:30～20:00

場所 尾道商工会議所ビル2階

講師 広島県政策企画部企画監 橋本 康男 様

演題 「シンガポールの多様性活力と広島の未来」

～違いを生み出すビジョンと行動力～

合併新都市研究部会長 江嶋昭吉氏

当日の橋本講師は、亀田市長の紹介、地元尾道の出身、勤務先の関係上、市役所から数名余の部長の聴講があった。ご本人としても同じ公務員という立場上、彼等に多少配慮しつつ限られた時間を惜しまれる様に多岐にわたって熱く自論を展開された。初めに、自ら望んで赴任されたシンガポールの案内を、

○国際競争力面でのランキング

○国力を表す各種の指標

○空港、港湾の規模、能力

等を数値で説明され、続いて国の理念と施策に関して

○国境と企業社会のボーダレス

○優遇税制と外国人の受入制度と雇用

○インフラ整備

○多民族構成と、それに伴う宗教と公用語

等々、日本との比較をベースに説明された後、まとめとして、日本社会の課題と長所を提示された。なお、講師曰く、シンガポールはある種独裁体制だそう。

次に、日本国内の問題点を指摘され、よりよい未来のあるべき姿を提言された。

初めに、成熟社会の制度疲労から起因する課題と対処について

○お役所仕事の欠陥を指摘

○よりよい未来の実現に要すチャレンジ精神とビジョンと行動力

○地域の医療、福祉を初めとする多様な課題

を列挙され施策

○地域社会と組織社会のかかわりを強化

○住民を主体とした地域づくりの方策

○社会システムづくりの必要性

を説かれ重要な点として

○現場を原点とした経験則を超えた改革

○困難に対応しやり抜く企画力

○課題を理解、整理する対話力

を挙げられ、これらを推進するためのコーディネーター、プロデューサー等、人づくりの肝要なところを強調された。

最後に、以上の事項を実践しつつ人財と知的資本を蓄積し尾道の未来を創り出すという期待と願望のメッセージをもって終演となった。

